

第5期多摩区区民会議

第1回「人・まち・わづくり部会」 次第

日時：平成26年12月17日（水）18時～20時

場所：多摩区役所10階1002会議室

1. 開会のあいさつ

2. 議題

(1) 専門部会の設置について（構成員、正副部会長の確認）

(2) スケジュールの確認

(3) 取組テーマ・審議課題について

(4) 審議課題の今後の検討について

3. その他

<配布資料>

資料1：「人・まち・わづくり部会」の進め方について

資料2：第5期多摩区区民会議委員名簿

資料3：全体スケジュール

資料4：第2回区民会議ミーティングまでの意見整理の概要（取組分野の絞り込み案）

資料5：第2回区民会議（11月19日）における部会打合要旨

第5期 多摩区区民会議委員名簿

平成26年12月17日現在

任期:平成26年7月1日～平成28年6月30日 (敬称略・50音順)

◎委員長 ○副委員長 ☆部会長 ★副部会長

NO	氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
1	アベ シュウジ ○安陪 修司	多摩区の魅力 いきいき部会	多摩区商店街連合会
2	アライ セイチ 荒井 精一	多摩区の魅力 いきいき部会	市民公募
3	イシバシ ヨシアキ ◎石橋 吉章	人・まち・わづくり部会	区長推薦
4	イワノ マサユキ 岩野 正行	多摩区の魅力 いきいき部会	多摩区観光協会
5	オガワ タケン 小川 剛	人・まち・わづくり部会	多摩区町会連合会
6	ヨクボ ヒサミツ 国保 久光	★人・まち・わづくり部会	川崎市医師会多摩区医師会
7	コヅカ テツコ 小塚 千津子	☆人・まち・わづくり部会	多摩区こども総合支援連携会議
8	コンドウ キョウ 近藤 清	人・まち・わづくり部会	多摩区自主防災組織連絡協議会
9	スギシタ ロクロウ 杉下 禄郎	☆多摩区の魅力 いきいき部会	市民公募
10	タカハシ ケンイチ 高橋 謙一	人・まち・わづくり部会	多摩区・3大学連携協議会
11	タザワ スケノブ 田澤 祐信	多摩区の魅力 いきいき部会	多摩防犯協会
12	ツジノ カツユキ 辻野 勝行	多摩区の魅力 いきいき部会	多摩区まちづくり協議会
13	トダカ ジンコ ○戸高 仁子	人・まち・わづくり部会	かわさきかえるプロジェクト
14	ハイジマ ユミ 配島 裕美	人・まち・わづくり部会	多摩区地域教育会議
15	ハラダ ヒロシ 原田 弘	人・まち・わづくり部会	多摩交通安全協会
16	フジワラ ツカサ 藤原 司	多摩区の魅力 いきいき部会	川崎市多摩区社会福祉協議会
17	ホソノ タカミ 細埜 隆己	多摩区の魅力 いきいき部会	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会
18	ヤノ ヒサキ 矢野 久喜	★多摩区の魅力 いきいき部会	市民公募
19	ヤマシタ ヒロコ 山下 宏子	多摩区の魅力 いきいき部会	市民公募
20	ヨコ エイコ 余湖 英子	多摩区の魅力 いきいき部会	多摩区文化協会

多摩区の魅力いきいき部会(11名)、人・まち・わづくり部会(9名)

【参与】

市議会議員

井口 真美 河野 ゆかり 斉藤 隆司 菅原 進 露木 明美

橋本 勝 廣田 健一 三宅 隆介 吉沢 章子

県議会議員

青山 圭一 土井 りゅうすけ

「人・まち・わづくり部会」の進め方について

平成 26 年 12 月 17 日（水）

1. 専門部会の設置について（構成員、正副部会長の確認）

（1）人・まち・わづくり部会の設置

- ・第2回区民会議全体会（11月19日開催）において、第5期多摩区区民会議専門部会として「人・まち・わづくり部会」を設置し、調査審議を進めることになりました。
- ・当専門部会の構成員は、別紙の名簿（資料1）のとおりです。

（2）正副部会長の選出

- ・第2回区民会議全体会と併せて行った部会打ち合わせにて、正副部会長が決まりました。

部会長 ：小塚 千津子 委員

副部会長 ：国保 久光 委員

2. スケジュールの確認

- ・全体スケジュールは、資料3のとおりです。

3. 取組テーマ・審議課題について

(1) 取組テーマについて

- ・部会名称を補足し、各部会の審議課題の方向性を示すものとして、取組テーマを設定することが考えられます。
- ・第2回区民会議全体会と併せて行った部会打ち合わせにて、『テーマについては「人・組織・地域のつながりづくり」を仮のテーマとし、具体的には次回以降の審議課題の検討と併せて考えていく。』とされました。

部会名称	取組テーマ
人・まち・わづくり部会	(仮) 人・組織・地域のつながりづくり

(2) 審議課題について

- ・これまでの議論・意見（資料4、5）を振り返り、審議課題について検討することが考えられます。

資料4：第2回区民会議ミーティングまでの意見整理の概要（取組分野の絞り込み案）

資料5：第2回区民会議における部会打ち合わせ要旨

4. 審議課題の今後の検討について

- 過去の区民会議（第1期～4期）では、審議課題を決めるまでに長時間を要したことや、検討中に議論が拡散してしまうことが課題となっていました。
- これら課題を解消するために、下記の枠内に示す「委員による審議課題企画提案書の作成」により検討することが考えられます。
- また、以下の提案では、委員が「企画提案書」を作成することとしていますが、部会の場で提案書の各項目について意見交換しながら、審議課題を検討していくことも考えられます。

<委員による審議課題企画提案書の作成について>

- 委員が思いつく範囲で構わないので、課題、解決方法、解決するために関わる団体を記した審議課題企画提案書を委員のみなさんが作成し、これを基にして専門部会で検討します。

企画提案書の内容

- 背景となる多摩区の現状と課題
- 考えられる取組
- 取組内容を検討するために必要な調査
- 一緒に取組ことが考えられる市民活動団体
- 審議にあたって課題だということ
- など

※次ページに企画提案書のフォーマット（案）を示します。

※審議課題企画提案書の作成は、委員1名でも複数名が協働して行っても構いません。

審議課題企画提案書（案）

提案者氏名 _____

①企画名称		
②背景となる多摩区の現状と課題		
③考えられる取組 ※②を解決するためにどのような取組が必要と考えるか。		
④取組内容を検討するために必要な調査 ※③の内容を検討するために必要な調査（モデル事業のようなものも含む）		
⑤一緒に取組むことが考えられる市民活動団体（複数可）	団体名	
	理由	
⑥審議するために課題だと思うこと		

第5期多摩区区民会議スケジュール（平成26年度）

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会 (3回開催)			第1回(9/3終了) ・正副委員長選出 など		第2回(11/19終了) ・専門部会設置 ・部会メンバー決定 など				第3回 ・次年度の取組 計画の確認 ・平成26年度取 りまとめ など
区民会議委員 ミーティング (3～4回開催)		第1回(8/6終了) 第2回(9/18終了) ○自己紹介 ○区民会議の進め方について →全体スケジュール →部会の進め方 など ○区の課題の検討 →委員が普段感じている地域課題や区が 把握している地域課題を踏まえて、審 議課題になりそうなものを検討する →地域課題について意見の整理を行い、 審議テーマの絞り込みに向けた意見交 換を行う。		第3回(10/15終了) ○審議テーマの絞 り込み ○専門部会の設置 (案)の検討 ○部会メンバーの 検討 など		○勉強会等で活用することも考えられる。(1回程度) (例：総合計画勉強会等)			
企画部会 (2～3回開催)									第1回
専門 部会 (各部会 3回程度 開催)	多摩区の魅力 いきいき部会					第1回(12/5終了) 第1回 ○地域課題の共有 ○審議課題につい て意見交換、提 案 など		第2回 ○第1回の部会 での検討を踏ま えた審議課題の重 点化 ○審議課題の決定 など	第3回 ○地域課題の解決 方法の検討(決 定した審議課題 に対する取組手 法やスケジュール 等の計画作成) ○平成26年度の活 動内容の取りま とめ など
	人・まち・わづくり 部会					第1回(本日)			
区民会議ニュース (2回発行)						発行			発行

これまでの意見整理の概要(人・まち・わづくり部会)

地域課題アンケート等で出された意見

出された意見	審議課題になりそうなもの(例)	分野
<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流や地域振興の支援。多摩区の魅力発掘、失われた価値の再生・再評価、活動団体のネットワーク化等を通じての新しい緑社会の構築。 ・多摩区内3大学が地域社会に対して、どのような形で関わり、様々な分野において多摩区の活性化、発展に寄与できるかを考え、文教都市としてふさわしい地域社会づくりに関して検討していく。 	地域の連携、市民活動団体のネットワーク	地域の活性化
<ul style="list-style-type: none"> ・生田緑地を多摩区観光の拠点として、周辺地域に集客し街中に活力を持たせる。安心安全な街づくりの組織づくりをする。 ・多摩区の将来像は、自然と観光、大学のまちがイメージとして相応しい。 ・多摩区には観光スポット生田緑地があるが、地元の人々があまり利用していない。日本民家園の古民家の数25棟が日本一である事はあまり知られていない。もっと生田緑地の素晴らしさを内外に伝えてほしい。 	地域資源を活用した地域の活性化の方法について	
<ul style="list-style-type: none"> ・登戸土地区画整理事業もまだ50%しか進んでいない。道路が先行し、区画整理地区内にはまだ公園がない。近くの保育所でも遠くまで外遊びに行かなくてはならず、事業用地で遊んでいけば「ここは遊び場ではありません」の看板が立つ。 	子どもの遊び場づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区には85年前から唄い継がれている多摩川音頭(北原白秋作詞)がある。土地の名産品や名所・旧跡が盛り込まれて村の暮らしの風情が伝わってくる唄である。今は唄える人、踊る人の数も激減したが、大切に残したい伝統芸能である。多摩川音頭のほか数ある多摩区の文化財・文化資源・伝統芸能の保存・継承について課題としたい。 	多摩区の歴史・文化の継承の方法について	
<ul style="list-style-type: none"> ・商店、商業者から感じるのは、会話する人が減り、一言も話さない人がどんどん増えている。流通・行政関係からはクレーマーが増え対応は膨大な労力を使う。 ・少子高齢化に関して地域での取り組みがいろいろとなされているが、普段元気に過ごしている中高年層や、青年層・新住民がっているのかが、見えない。日常から顔の見える関係づくりが大切と考える。もっと「見える化」と「つながり」を多摩区の状況にあった方法で身近に広げる方法を検討したい。 ・コミュニティに限らず、福祉の面ともリンクできるような、地域にあった身近な「見える化」と「つながり」について検討したい。 	地域のつながりに関する取組について	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域内で活躍する各種団体と市民、行政とを結びつける方法を研究し活躍をする団体、支援を受ける人、行政の連絡窓口づくり ・市民から情報・意見をもらう、「市民の目」サイトの構築。Twitter、Facebook等のSNSで市民が自由に投稿できる仕組みをもっている自治体がある。スマホ、デジカメ/PCを使って市民からの情報、意見を画像で受け取る。受け取る情報、意見は制限しないが、市民の意見、災害時の状況通知が想定される。 	市民と行政の協働の仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の被害の拡大に危機意識も高まっている今、改めて地域の災害対策について考え、見直し、知識を深めることが必要。 ・これからは商店会も町会と一体で防災訓練を行い、災害に備えたい。 ・災害への備えも急務なことが明らかになっており、町会連合会代表者とも再度意見交換会を持つことや区が把握している現状をまず明らかにして、区民会議での取り組みを具体化したい。 ・地域防災では、前期ではまだ完全な対策でなかった。今後継続して審議したい。 ・地域防災について自主防災組織はありますが、地域の方はどのくらいご存じなのか。 ・震災発生時の共助(救援)は、第4期区民会議でも検討課題となったが、地域の高齢化によりいざという時(発災時)に頼りとなる救助人員の不足を補う目的で学生達に焦点があつた。この点についてより具体的な提案とするべく検討をすすめてほしい。 ・2013年5月に横浜市は、「横浜市災害時自助・共助推進条例」を成立させ、条例によってそれぞれの立場の人たちが、積極的に防災の推進を行い易くしている。 ・第5期区民会議としても、より災害を軽減する減災社会の実現を可能とするべく、さらなる検討をすすめてほしい。 ・障がい者を交えた宿泊を含む避難所訓練～障害の理解、啓発と避難所の実地訓練。 ・高齢者1人搬送するのに大人4人が必要であり、災害時における高齢者対応が課題。 ・平常時の整備は区でもいろいろ予定されているが、異常気象や災害を想定した状況下も合わせて確認する必要がある。 ・昨年大雨で椀形中学校の生徒の多くが、冠水した通学路を裸足になり登校し、中学校は避難場所にもなるところでもあり、他の小中学校の通学路ではどうだったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での防災対策の取組、自助・共助のあり方について 高齢者・障がい者の安全な避難について 災害についての情報収集の方法について 安全な避難場所・避難経路の確保について 	地域防災

第2回区民会議ミーティングで出された意見による再整理

分野	審議課題になりそうなもの(例)
○地域のコミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会・商店会・3大学、市民活動団体等の連携とネットワーク ・顔の見えるつながりづくり ・連携・ネットワーク・つながりのための仕掛けづくり
○地域の安心・安全を支えるコミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ(町会、商店会、3大学等)の活性化による安心・安全を支える仕組みづくり

人・組織・地域のつながりづくり
 ・町の連合・商店会・3大学、市民活動団体等
 ・顔の見えるコミュニティによる防災など

第2回区民会議（11月19日）における部会打合要旨

①テーマについて

- ・テーマについては「人・組織・地域のつながりづくり」を仮のテーマとし、具体的には次回以降の審議課題の検討と併せて考えていく。

②進め方について

- ・今後、具体的な審議課題を検討し、審議課題を重点化していく。審議課題が決定したらその具体的な解決策を検討していく。この結果を区長に提言する。
- ・基本的な流れについては、事務局提案の進め方で良い。（提案書方式については、次回の部会で議論する。）
- ・我々だけで議論して決めていくのではなく、議論に関連する委員以外の人たちの意見も聞いていくことが重要である。
- ・議論の過程で適宜全体会に報告し、もう一つの部会の委員の意見を聞きながら進めていくことも必要。

③審議課題の検討に向けた意見

- ・コミュニケーションのあり様は変化している。また、様々なコミュニケーションがある。マンション、戸建て住宅でもコミュニケーションのあり方は異なる。特に、多摩区の場合は、若い人口が多くて動きが激しい。これまでの「顔の見える」「握手のできる」というコミュニケーションのあり方は、変化してきているのではないか。現在のツールを利用した「今風の」コミュニケーションのあり方・形を考える必要があるのではないか。
- ・例えば、町会の横のつながりがないから連携が必要だ、と考えても実際にはどうなのか。定性的な話ばかりではなく、定量的な検討も必要ではないか。
- ・障害者団体に関わっている者として考えると、市民活動団体の連携は、ある程度限定される。同じような境遇など、なんらかの関連性のある団体同士でなければ、そもそも連携は考えられない。
- ・市民活動団体が横に連携したらもっと良くなるという話は聞くが、それは限られた範囲の中の話だと感じる。
- ・地域の子供たちのスポーツ活動等で、その親同士の協働が見られても、町会活動について手伝いをお願いしても断られてしまうなど、コミュニケーションをとることが難しい。その結果、町会活動はいつも同じ人がやっている状況がある。町会全体の住所録を作ろうと

すれば反対されてしまう。よほどうまくやらないと、コミュニケーションの問題は難しいテーマである。

- ・マンションの人はマンションの中だけで、土地の人とのコミュニケーションはとれていない。町会からチラシ等の配布を依頼しても対応してもらえず、町会の役員が持っていく状況。
- ・我々が求めているコミュニケーションやつながりは、「顔の見えるまち」が目標。近所づきあいがなくとも、あいさつをしなくとも生活に困らない現実がある。せめて、顔を合わせたらあいさつをしよう、そのような付き合いができるようにしていくことを目標にしたい。
- ・大学と地域とのつながりについて、大学の立場としては求められることが多い。例えば、教室を提供することも地域とつながることだし、大学内の里山を開放してほしいという地域の希望にこたえることもつながりである。大学の授業を公開することなど、大学側から発信できることもあると思うが、大学側からは、地域に対しては受け身のつながりになると思う。
- ・我々が学生とコミュニケーションをとることを考えると、メールやINS等にならざるを得ない。学生とのコミュニケーションには、その方法を考える必要があるのではないか。
- ・学内で大学と学生のコミュニケーションは、こちらから発信するというよりも、学生が求めているものを選択して取っていく形が多くなっている。ただ、少数ではあるが、自ら動いて顔の見えるつながりを求めてくる学生もいないわけではない。全ての学生が、メールやINS等に頼っているわけではない。
- ・大学から学生への「地域とのつながり」に関する働きかけはあるのか？
⇒学生が地域での生活で困った場合は、学生から大学に相談がある。大学からの働きかけはない。
- ・地域に住んでいる学生がゴミ出しや騒音等で地域に迷惑をかけるケースでは、地域の人が声をかけて注意をすることもコミュニケーションの形であり、地域とのコミュニケーションがあれば改善につながるのではないか。
- ・学生は、生活時間が不規則であり、地域がコミュニケーションを取ろうとしても難しい。
- ・学生は地域の生活マナーをもともと知らない面があり、我々から積極的に声をかけていく必要があるのではないか。
- ・商店街に空き家があり、それを借りたいという大学の先生がいて地域でお菓子を作ったりしていたことがある。その輪が広がって、地域の祭りに浴衣を着て参加してくれたことがある。しかし、続かなかった。
- ・自主防災組織として、企画書を提出したいと考えている。

- ・自主防災組織では、それぞれに温度差があるようだ。
- ・要介護支援者等への対応が課題になっている。対応は、基本的に町会に委ねられており、万一の場合にどのように対応するのか。
- ・ハロウィンのイベントを毎年やっており、20年目になる。子供たちは友達同士で誘い合い参加しており、親たちもOB会のような形で交流が続いている。うまくイベント等を通して発信していけば、子どもたちと親たちのつながりが生まれてくるのではないかと思っている。
- ・自主防災組織の関連で、高津区では合同防災会議があり、自主防、消防署、消防団に一般の方を交えて学校で消防訓練をしている。各地域で持ち回りでやっており、最近の例では800名ほど集まった。地域（町会等）も参加し、子供たちとその親も参加するイベントになっている。毎年開催しているので、年々顔見知りになっていく。多摩区でもあったらよいなと思う。
- ・多摩区では、そのようなイベントはなく、町内会自身で取り組んでいる。避難所会議はあるが学校区単位。自主防災組織と消防団との連携も全くない。
- ・どのようなかたちで、高津区はそのような取組が実現したのだろうか。
- ・防災に関する意識が高くなっているので、多摩区でも防災をきっかけにいろいろな方が参加できる取組が考えられるのではないか。
- ・あくまで「自主」防災組織なので、難しい面がある。
- ・高津区の場合は、一緒に危機管理室が動いている。
- ・以上の議論は、コミュニケーションと防災に大別されるが、防災というテーマにコミュニケーションをどのように組み入れていくかではないか。災害のときほどコミュニケーションが重要である。また、災害のときほど、コミュニケーションが取れる状況でもある。
- ・今年のまちづくり協議会で、加入率が100%の町会に視察に行つたと聞いている。その情報を次回の部会で聞きたい。